

# 男の新聞

OTOKO NO SHINBUN

三重一般同盟青年委員会 A A O

津市栄町1-891 三重県勤労者福祉会館内  
(TEL 059-226-9311 FAX 228-6109)  
発行：編集責任者 落合翔馬

機関紙「男の新聞」vol.28 [ 2024. 5. 14 ]

AAOとは……A : Amusement (楽しみ) A : Asking (求めて) O : Organization (組織)

## OUTDOOR in 鈴鹿のお知らせ

今年もAAO・ひまわり合同アウトドア行事「スポーツイベント&BBQ」を開催します。

新しくなったダイセーフォレストパーク（鈴鹿青少年の森）において行います。

スポーツは「卓球大会」です。優勝チームには何か良いことがあるかも…？

その後はお馴染みのBBQ！

アルコールもありますので、皆さんで乾杯しましょう。

皆さんのご参加をお待ちしております。 AAO委員長（落合）



日時：6月8日（土） 10時～

場所：ダイセーフォレストパーク（鈴鹿青少年の森）  
スズカト（鈴鹿青少年センター） ※同敷地内

内容：卓球大会&BBQ（雨天決行）

## Table Tennis



### ●概要（当日若干の変更有）

- ・チーム団体戦  
（リーグ戦またはトーナメント戦）
- ・男女シングルス、男子ダブルス、  
女子ダブルス、混合ミックス対戦  
（2勝先勝）
- ・11点×1ゲーム（仮）

熱中症対策は  
万全に！  
(水分補給など)



優勝目指して  
がんばって下さい！



## 【会場案内】



青年委員会AAO HP

<http://www.domei.org/AAO-top1.html>  
※三重一般同盟HPからもご覧いただけます。

イベント報告等UPLしています。  
ご意見・ご要望お待ちしております！



釣りについて皆さんはどれくらいご存知でしょうか？

- ①人類は4万年前から釣りをしている  
釣り針やそれに似た道具は何万年も前に発明されたと考えられており実際に旧石器時代の遺跡から釣り針が発見されています。  
釣り針といっても今のように金属や鉄で出来たものではなく、木・貝殻・石・動物の骨などを材料にして作られていたようです。
- ②オリンピック種目に「釣り」があった  
1900年に開催されたパリ・オリンピックでは競技種目に魚釣りがありました。ルールは、2日間で釣り上げた魚の総重量を競うというもの。2016年には、CIPS(国際スポーツフィッシング連盟)がIOC(国際オリンピック委員会)に「釣り」を東京オリンピックの種目として加えるよう申請したという報道もありましたが、その願いは叶わなかったようです。
- ③ルアーや餌木は「うっかりミス」から生まれた  
ルアーの起源は、1800年代イギリスのデヴォン系ルアー(スプーン)が有力な説として語られていますが、日本においては1700年前後に既に餌木(エギ)の原型が存在したといわれています。  
それらが生まれた理由の一説としては「食器のスプーンを誤って湖に落とし、それにマスが食らいついたことからヒントを得た」といったものや「漁師が松明(たいまつ)を海に落とし、それにイカが抱きついたことからヒントを得た」といったものがあります。  
ルアーは「うっかりミスからなる偶然から生まれた」ものだといえるかも知れませんね。



今回は私の大好きな釣りの雑学を紹介させていただきました！  
釣りといっても狙う魚、場所、釣り方の組み合わせを細かく分けると100種類以上ありますので、一生かけて楽しめる趣味だと思えます。

皆さんも始められてはいかがでしょう？！ オーシー (社)

## 皆さんのJリーグ最高チームはどこですか？

皆さんはJリーグに興味はありますか？  
もし自分の応援しているチームがあれば、そのチームが間違いなく最高のチームであると思います。



今回はあるチームにフォーカスし、鹿島アントラーズの歴史について紹介します。

プロサッカーリーグの1チームとして始動開始しましたがオリジナル10に入るのには容易ではありませんでした。  
当時アマチュア2部リーグでも低迷しており、町のサッカーグラウンドで試合をしているチームがプロリーグ加盟なんて99.99%できるわけがないと言われていました。プロリーグへの参入条件は、1部リーグへの昇格と専用スタジアムの建設でした。しかし！！チームは急に巻き返し、上位に食い込むことができたのです……！  
なぜそのような巻き返しできたのかというと、1人のスーパースターがチームに入団したことがきっかけです。  
その人はブラジル代表の『ジーコ』です。“ジーコ効果”により地域住民などの協力もさらに大きくなり、専用スタジアムも急ピッチで建設が完了し、正式にプロサッカーリーグに加盟することが叶いました！！  
このようにプロサッカーリーグに加盟するまですごく苦労しましたが、2024年現在での“Jリーグ”、“Jリーグカップ”、“天皇杯”国内主要3大会の最多優勝チームに加えて、J1リーグ最多勝利、最多ゴール数も誇ります。また、J2リーグへの降格もしたことがないため常勝軍団と呼ばれています。

しかし、2016年のリーグ優勝を最後に国内タイトルから遠ざかっており、今年もあまり勝っていません。  
名門、常勝軍団の復活に今年はご期待ください！！  
オーシー (谷下)

## Jリーグエンブレム変更の歴史

2月23日にJ1~J3全60チームで開幕した明治安田Jリーグ(国内プロサッカー)ですが、毎年各チーム新たなシーズンを迎えるにあたり、選手・監督・スタッフ等の入れ替わりをして新たなチームとして戦う準備をします。

その中にエンブレム変更があります。エンブレムとは、クラブを象徴する証であり、ユニフォームの胸にはエンブレムが刻まれております。2024年には新たに5チームがエンブレム変更をしており、クラブイメージも刷新されております。



今回はその中でも私が応援しているFC東京のエンブレムの歴史についてご紹介いたします。まずはクラブ創業から2023年シーズンまでの旧エンブレムと新エンブレムをご覧ください。

FC東京の前身となる東京ガスから来た炎のビジュアルが印象的でしたが、2019年からMIXIが経営権を取得したことやプロクラブ創立25周年の節目とい

うこともあり、2024年シーズンから新たなエンブレムに変更することになりました。

新エンブレムコンセプトは「継承と革新」、細かなデザインに意味が込められており、クラブとしても創設以来培ってきた継承すべき伝統は継承して、そのなかで革新を起こしていく強い意思を感じます。

この変更には賛否両論あり、創設以来親しまれてきたエンブレムからの変更は昔からクラブを応援するサポーターにとっては理解し難いものでもありました。

しかし、そもそもエンブレムが良いからこのクラブを応援している訳ではなく、クラブそのものが好きで応援している人が多いと思います。

Jリーグ制覇を成し遂げていないというのは事実でその状況を変える一つのきっかけにはなると思うので、クラブの意思を信じてこれからも応援できれば良いと思います。

新シーズンが始まりましたが、今年は毎試合見る予定でDAZNも契約しました！  
皆さんもYouTube!に上がっているハイライトからでも良いのでJリーグを見て一緒に盛り上がりましょう。今年もどのようなドラマが待っているのか楽しみです。 センコーアドバンス(伊藤)

